

【目指す児童像】

やさしい子
元気な子
よく学ぶ子



ホームページ

はち まん

八幡の森

学校だより 第16号

令和6年3月21日

宇都宮市立昭和小学校

発行責任者 宮澤文洋

卒業証書授与式を挙行了しました

3月19日(火)、穏やかな春の暖かさにつつまれ、令和5年度卒業証書授与式を挙行了しました。これまで、温かく子供たちを見守り続けてくださいました地域の皆様、域内の企業及び事業所の皆様、6年生は頼もしい姿で、しっかりと最後を締めくくりましたこと、御報告いたします。ドラマチックな式でしたが、やはり、本番に強い子供たちでした。これまで大変お世話になりましたこと、教職員を代表しまして、心より感謝申し上げます。詳細は、学校ホームページで御紹介しています。

さて、今回の卒業式では、在校生の参列は4年生と5年生です。1年生～3年生は体育館スペースの関係で、各教室からライブ映像を見ながらの参列としました。分散の形にはなりますが、「全員参加」にこだわりました。理由は2つです。まず、6年生を全児童で送りたいということ。そして、各自に「お別れ」というものをしっかりと経験させることです。大切な人との別れは、つらいものです。そのような時、我々の心は、いわゆる傷がついた状態になるようです。できれば、傷つきたくありませんが「会うは別れの始め」。無常ですが出会ったからには必ず別れがあります。別れの際の傷つく心を守る方法は、「言葉に心に乗せる」「手紙など文字に心に乗せる」「手作りの贈り物に心に乗せる」、そして「涙に心に乗せる」などが考えられますが、いずれにしても、別れの経験は、人を大きく成長させます。



見つめる・見守る・見届ける ～時間をかけて子供に寄り添う～

3月13日(水)、今年度最後のロング昼休み「のびのびタイム」での話題です。45分間の自由遊びの中で、たまたま出会えたエピソードを4つ御紹介いたします。

まず、あるクラスは、国旗掲揚塔前で記念撮影タイム。時間をかけながら丁寧に撮影する様子に、出会えた「縁」を大切にする担任と子供たちの気持ちが伝わってきました。ほっこりです。

続いて、「校長先生、これ名前がわかりますか？」と声をかけられました。落とし物のようです。一緒に名前を確認した後「何年生ですか？髪型は知っていますか？」と確認されました。これまでならば、「校長先生、これ落とし物です。」と渡されて終わることが多かったのですが、どうやら違うようです。これから、校庭中を探そうとしているのです。「〇〇さんを探すの？」と確認したところ、「きっと困っているでしょ」と告げるなり歩き始めました。5、6歩進んだところで、落とし子が通りかかりました。ナイスタイミング。すぐに届けることができました。神様は見ているのですね。私は、「きっと困っているでしょ」の相手を思いやる言葉にグッときました。

次です。「校長先生、お友達がけんかみたくなくて…」何があったのかよくよく聴いてみると、遊ぶ約束をしたとか、しなかったとか、すれ違ってしまったようです。そんな状況を何とかしようと奔走する子がいました。大人が間に入って絡まった糸をほぐせば早いのですが、SOSが出るまで見守ることにしました。すると、一生懸命あっちへこっちへと走って、糸をほぐそうとしています。途中で「どうなりました？」と声をかけてみましたが、進展は難しいようです。そうして20分ほどした後、糸がほぐれました。ありがとう、友達のために力を尽くしてくれて。校長先生はずっと頑張りを見ていましたよ。

最後です。「校長先生、別の学校に行くことが急に決まった。びっくりしているの。」「そうなの？〇〇さんの顔を見られなくなると、校長先生は寂しくなるよ。」「うん……」と校庭に走って行きました。1分にも満たない時間でした。その子には、急な転校がショックでストレスになっていたかもしれません。それを私に話すことで、少しでも心の安定を図ろうとしたのだと想像してみました。そんな相手に私を選んでくれて光栄です。ありがとう。別の学校に行っても、あなたの活躍を期待し、応援しています。

年度の最後まで、子供たちには教えてもらうことばかりです。



日々、本校教育活動を支えてくださっている皆様に、深い敬意と感謝を含め、昭和小学校だより令和5年度『八幡の森』を結びたいと思います。今年も1年間御笑覧いただき、ありがとうございました。

「劫初より つくりいとなむ殿堂に われも黄金の釘 一つ打つ」